



みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。



今月の
ひと

荒浜出身の
アマチュア写真家

後世に伝えていきたい
故郷荒浜のあの時

荒井大沼でカメラを構える、荒浜出身の庄子源六さん。躍動感ある白鳥の姿を押さえようと早朝から通い続けています。「なんでも好きなんですよ」という庄子さんの趣味は写真、カラオケ、卓球、絵画、書道などさまざま。始めてから七年半程になるカメラは、「まだまだ素人」というものの、数々のコンクールで受賞を重ねる腕前です。

そのカメラで二〇一二年三月、荒浜の惨状を記録し始めた庄子さん。当初は、自宅が解体されるまでの様子を記録しようと考えていたものの、破壊された故郷を目の当たりにして、シャッターを切らずにはいられなくなったといいます。自宅の解体が終わる同年秋まで、幾度となく荒浜へ足を運びガレキに覆われた故郷を撮影しました。

その写真は、翌二〇一二年、「東日本大震災 地震・津波の爪痕写真集」として出版しました。「この悲惨な状況を後世に残さなくては、被災地荒浜の記録を残さなくては」という思いに駆られたと庄子さん。現在もその思いは変わらず、震災遺構として保存が検討されている荒浜小学校へ展示してほしいと、写真の準備を進める日々です。

2014
1月

三本塚 オモイデゴハン

Sanbonduka Omoide Gohan

楽しく食べよう 食べたらずこう
そしていっぱい笑おう



『オモイデゴハン食堂』開店!

“採れたて野菜のフルコース”で三本塚を食べ尽くそう

イベント当日、食事の準備に忙しい三本塚の女性陣は「バスは何時に着くんだっけ」と、仙台市内からバスでやって来るお客様の心配をしています。オモイデゴハンの会場となったのは仮設の三本塚集会所で、市営バスの終点三本塚バス停は目の前です。お昼を少し過ぎた頃にバスが到着し、お客様がぞろぞろと降りてきました。さあ、オモイデゴハン食堂の開店です。

小野吉信町内会長による歓迎の挨拶中も、お客様は目の前に並んだオモイデゴハンに興味津々です。今日のメニューは、豚汁、ゆずみそ大根、人参の白和え、レタスのサラダ、漬物4種(胡瓜の醤油漬、大根のシソジュース漬、ゆず大根漬、白菜漬)、おにぎり3種(山菜おこわ、黒豆ごはん、ひとめぼれごはん)と三本塚の野菜を使ったフルコースです。

「いただきまーす」と言い終わらないうちに「このおつゆ、おいしい」「ゆずみそ、持って帰りたい」と響き渡る集会所でした。調理や配膳を担当したお母さんたちの紹介があり、それぞれのメニューについての質問などを受けていました。若者や都市部の人、隣り合わせた地元の方々と野菜や畑の話に花が咲きました。

秋晴れの11月24日、おいしさも豊かな風土も丸ごと味わおう!と、開催されたのが『三本塚オモイデゴハン』です。2013年3月に1回目を六郷市民センターで行ったこの企画、2回目の今回は東六郷三本塚の地元の方々による開催となりました。全域約100世帯が津波被害を受けた三本塚町内会では、現時点で42世帯が新築や修繕をして生活を再開しています。この三本塚を舞台に、地元住民はもとより一般市民や学生ボランティアも交えた約70名が集まり、世代や地域の交流が実った秋の1日でした。

農と食、生業と食することが密接につながっていた三本塚の暮らしを目に見える形にして、地域内外の方が共有することを目指したのがこの企画です。主催は、仙台市沿岸部の住民とその暮らしを対象に取材活動をしている「RE:プロジェクト」。そのスタッフと料理を担当した三本塚の女性陣は、猛暑の8月から素材やメニューの話合いを重ねて、開催の数日前には地元農家から提供された野菜の下ごしらえをしていました。地元の野菜を食べ、地域を散策し、映像で昔を振り返る、それが今回の『三本塚オモイデゴハン』です。

皆さんおとなしく聞いているようですが、実は、食べるのに夢中なのです



秋の田園地帯を歩く参加者。地元の方も驚くほど海が近かったのです

目の前に広がったのは、稲刈りが終わった田んぼでした。ずーっと先まで田んぼです。そのまた先に、ぼつんぼつんと立っている松の木が見えます。小野さんは「あの松の木が防風林だったんです。今では、その先の防潮堤まで見えるし、波の高い日には波しぶきまで見えますが、以前は、海岸まで相当遠いと感じていたのです。それが、こんなに近くに海があったんですね」と語りました。

『昔の東六郷』上映会

昭和の写真“変わったもの、変わらない心”

「なんだべ、わだしだっちゃ」。昭和30年代の田植え風景がスクリーンに出た途端に会場から聞こえた一言です。写真の真ん中に写っていたのが、調理のリーダー役を務めた大友よし子さんでした。さあ、それから「私はどこそこから嫁に来たから大変だった」などなど、三本塚の女性陣が一斉に語り始めます。一般参加者も「昔は、しろかきに馬を使ったそうですね」「牛や馬は、農業にとって大事な動力だったんですね」と話しながら「皆さん大変だったというお話ですが、この写真を見るととても楽しそうに見えますよ」と、会場中の笑いを呼んでいました。



「畑の真ん中で焼きいもを焼くとは思いませんでした」と「ダイゴン」をかじる学生さん

『三本塚を歩く』

秋を感じて歩く“ふるさとの風景”

お腹いっぱいになったお客様は、小野町内会長とラジオ番組「はいらいん若林」のスタッフの案内で町内を散歩しに出かけました。亀塚・鶴塚・朝日塚といわれた三つの古墳があったことから『三本塚』という名がついたらしい、など地元の言い伝えや、各家には守り神様が祀ってあること、津波ほどの位の高さまできたのかなど被災状況も説明し、被災住宅をリフォームしたケースや新築したお宅などを紹介しながら集落の外れまで歩きました。

NPO法人20世紀アーカイブ仙台の協力で、昔の東六郷の写真や8mmフィルムが上映されました



『デザートは焼きいも!』

お腹いっぱい“気持ちまで温かい”

朝から畑で焼きいもを焼く係の学生ボランティアが「のどが渴いた〜」というと、「んで、ダイゴンかじらいんっ」と、前の畑から引き抜いた大根を差し出されました。「初めて生の大根をかじりました!」「はじめは甘かったけど、中はちょっと辛いでーす」と言いながらせせと火をおこしていました。彼らには、大根の味と共に三本塚の人と風景が記憶されたことでしょう。

前回も参加したという青葉区の男性は「ゴハンはもちろん美味しかったです、地元の方々とお話したら懐かしいような温かい気持ちになりました。集落を歩いたのもとても良かったです。仙台市内にこんな素敵な地域があったんですね。すっかり三本塚のファンになりました」と話してくれました。

みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

●3日(日・祝) みんなで祝った1周年
(荒浜)



2013年9月号の表紙で取り上げた貴田慎二さん。仲間とスケートボードコースをつくり始めて1年が経ちました。記念イベントには大勢が参加し、桜の木を植樹しました。

●7日(木) これぞ地域の味! 鍋まつり
(青葉区・勾当台公園市民広場)



県内各地から特色ある鍋料理が集まりました。仙台市からは2013年8月号で紹介した「おにぎり茶屋 ちかちゃん」が芋煮で参戦! 昼前に売り切れる人気ぶりでした。

●8日(金) お薬師さんで野点のお手伝い
(陸奥国分寺薬師堂境内)



『お薬師さんの手づくり市』で開催された野点では、お茶をたてたりお菓子を揃えたり、卸町5丁目公園仮設住宅の美女4名がお手伝い。これまた美人の住職と記念撮影をしました。

●14日(木) 荒浜のスター帰郷
(荒井小学校用地仮設住宅)



荒浜出身の三代目コロムビア・ローズ野村未奈さんが帰郷し、歌声を披露しました。自身が観光大使を務める長野県上田市の市長からは、名産品のリンゴのお土産が贈られました。

●16日(土) レタスってきれいだね~
(井土)



今回の「いっぺ食堂」は、子どもたちが食材の収穫から参加しましたよ。井土の大夫さんの畑には、ピカピカのレタスがいっぱいです。慣れない手つきながらも「レタスってきれいだね」と、沢山頂戴しました。

●23日(土・祝) 七郷市民大集結
(七郷市民センター)



23日、24日の2日間開催された七郷市民まつり。30回目を迎える今年は、若林消防団によるはしご乗りや、餅まき、地元サークルの作品展示、バザーや地産品の謝恩即売コーナーなど、盛りだくさんの催しでにぎわいました。お茶席にお邪魔すると、荒浜にお住まいだった南部さんがお点前を披露していました。出展団体のお茶教室・茶和楽会には他にも荒浜出身のメンバーがいらつしゃるとのこと。参加者は「七郷のおもてなし」を満喫していました。

●24日(日) 今年も大豊作だったね!
(下飯田)



2012年6月号の表紙を飾った高橋オクラさんの「リトルファームチエ」の収穫祭。利用者や近所の皆さんが集まって、ギター演奏や民謡に手拍子を打ち、豊作を祝いました。

●26日(火) 新そばに舌鼓
(七郷中央公園仮設住宅)



支援団体の主催で行われた、打ちたて、茹でたてのそば振る舞い。使用したそば粉は沿岸部で栽培されたものでした。カキのおダシでさらに美味しくいただきました。

読者からひとこと

●震災前、深沼海岸では海水浴シーズンにゴミの持ち帰り運動をしていました。震災後もここを訪れてくれる人は多いけど、ペットボトルや弁当容器などのゴミが増えてきたのが気になります。訪れる皆さんにゴミの持ち帰りをお願いしたいですね。
若林区/佐藤秀子さん

●鍋沼・原屋敷の土地に愛着があったから、家を建て直して二〇一三年夏に戻った。散歩しても人となかなか会わないし、近所から子どもたちの声が聞こえなくなったね。今は植えたばかりの木が大きくなるのが楽しみ。『今からコツコツ植えてどうすんだ』って笑われるけど、この木が一人前になるまで元気に過ごしたい。
宮城野区/庄司富蔵さん

●福島県には定期的に掃除をしに帰ります。いつ住めるようになるかは分からないけど、帰った時のためにきれいにしておきたいです。でも、帰るたびにねずみが死んでいたりするんですよ。嫌になっちゃいますね。
太白区/いさみ

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体が話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜移転まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。

十一月二十二日(金) 定例会議

内容

●説明会について協議

当日の様子



問い合わせ先
代表 宋永薫 (問い合わせがある場合は直接定例会場においてください)
定例会議
第2・4金曜日19:00~
サンピア2F 会議室4

十二月八日にサンピアにて、住宅メーカー十社を集めた説明会を開催することが決まり、当日の運営方法などを協議しました。メーカーごとに説明ブースを設け、同時にFP協会の生活再建相談ブースや市の住宅再建相談ブースも設置することになりました。このイベントを通じて、会員の皆さんが具体的な再建計画を考えるきっかけになることが期待されています。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って文化の再生を目指す住民有志が中心となって活動しています。

十二月八日(日) 定例会議

内容

●デザインウィークinせんだい 出張活動報告

当日の様子



問い合わせ先
代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議
毎月第2日曜日14:00~
深沼海岸旧バス停前 里海ロッジ

海と森を繋ぐ「わ」プロジェクトとして、秋保の職人グループが製作した物品とともに、荒浜の生活を伝える写真や震災をテーマとした紙芝居などを出展しました。定例会議もせんだいメディアテークで行い、今年度の活動報告や今後の目標などを話し合いました。これからも、自然豊かな仙台荒浜の良さを全国へ発信することが確認されました。

明日の三本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。

十一月十九日(火) 定例会議

内容

●現地再建の状況報告
●移転希望者の現状について

当日の様子



問い合わせ先
代表 小野吉信 090-3122-4843
会議、学習会は自由参加、随時開催

三本塚では現地再建が進行しており、現在四十二軒が三本塚での生活をスタートさせていることが報告されました。荒谷地区への移転に関しては、希望者が減少していることから、他地域からの移転希望者を募ることも視野に入れて検討することにしました。その他、避難施設などに関する説明会の予定や復興公営住宅の建築予定などが報告されました。

荒浜復興公営住宅(戸建) 推進協議会

戸建の復興公営住宅を希望する方々の勉強会です。

十一月二十五日(月) 要望書提出

内容

●仙台市へ要望書を提出

当日の様子



問い合わせ先
代表 渡辺勝江 (問い合わせがある場合は直接会場においてください)
会合は随時開催
荒井小学校用地仮設住宅集会所

荒井小学校用地仮設住宅集会所に渡辺代表他七名が揃い、仙台市の担当者へ九項目からなる要望書を手渡ししました。集まった会員からは「戸建の復興公営住宅へ単身者も入居できるようにして欲しい」「復興公営住宅入居者にも経済的支援を新たに設けるように国に求めて欲しい」「敷金をゼロにして欲しい」などの要望が伝えられました。

※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください



お多福会の手工芸支援

東日本大震災からまもなく三年。今、さまざまなかたちで支援を続けている方々がいます。支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。被災地で取材を続ける情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

「私たち二人合わせてお多福会なんです！」。福永玲子さん（ふくちゃん）と五十嵐孝子さん（おたかさん）が声をそろえます。お多福会は、宮城野区などの仮設住宅で手工芸のワークショップを開いています。主に季節に合わせた小物をこしらえています。メガネストラップなど実用的なものをつくることもあります。



小物入れづくりのコツをアドバイスする福永さん（中央）と五十嵐さん（福永さんの左隣）

二〇一三年十一月末に宮城野区福田町南二丁目公園仮設住宅であった

ワークショップでは、小物入れづくりを行いました。集会所のテーブルには、材料となるガムテープの芯、工作用紙の型紙、型に合わせたさまざまな柄の生地などが並んでいます。参加者した九人の女性は、始まるのが待ちきれない様子でした。

五十嵐さんがつくり方を説明し、福永さんが一人ひとりに細かいアドバイスをしていきます。五十嵐さんの「ボンドで貼った材料を」しっかりと「ごいてくださいいね」との声に「あなたのだんなしごくようにすりゃいいのよ！」と、すかさず冗談が飛び交いました。参加した六十代の女性は「二人はとっても面白くてありがたい存在。毎回とても楽しみです」と笑顔で話します。

二人は普段、NPO法人「みやぎ・せんだい子どもの丘」が指定管理している児童館に勤務しています。主

に勤務が休みの日を利用してワークショップを開いています。

活動の原点は、子どもの丘が協力していた仮設巡回図書館「ブックワゴン」でした。福永さんは本の貸し出しのかたわら、被災された方々と折り紙などを通して交流しました。活動が一区切りを迎えた二〇一二年、「もっと続けてほしい」との言葉をもらったことが、福永さんの心を動かしたといいます。同じく「ブックワゴン」でハンドマッサージの支援

をしてい た五十嵐さんを誘い、ワークショップを始めました。参加者のリクエ



参加者の冗談が飛び交い場が和む、お多福会ならではの光景です

ストもあり、二人はワークショップのメニューを増やそうと手芸教室に参加したりもしています。最近石巻市でも開くなど活動は広がりをみせています。「希望があれば、都合のつく限りどこへでも駆け付けたい」と口をそろえる二人。ふくちゃんとおたかさんの名に由来する「お多福会」のワークショップは、参加する皆さんに和気あいあいとしたひとときを提供しています。

1月の手工芸ワークショップ日程

参加無料、直接会場へ
 8日(水) 10:00～ 仙台港背後地6号公園仮設住宅
 16日(木) 10:00～ 港南西公園仮設住宅
 16日(木) 14:00～ 福田町南1丁目公園仮設住宅
 17日(金) 10:00～ 鶴巻1丁目東公園仮設住宅
 31日(金) 14:00～ 岡田西町公園仮設住宅

※手工芸ワークショップの開催を希望する方々のもとに出張もします。気軽にお問い合わせください。
 問い合わせ/
 NPOみやぎ・せんだい子どもの丘
 022-343-8880

取材：今一馬@東北学院大学 齋藤大輝@石巻専修大学
 情報ボランティア@仙台 ブログでも発信中です。
<http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer16/> より(地域SNS「ふらっと」ブログ)

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

仙台市震災メモリアル・市民協働プロジェクト「伝える学校」～1995年と2004年の震災アーカイブを伝える～

阪神・淡路大震災、新潟県中越地震の記憶を伝えることに取り組んできた方を招き、伝えるための独自の視点を学び共有しながら、震災の当事者である私たちが「経験したことを伝える」ことについて考えていきます。

対象 どなたでも参加できます

※参加無料、申込不要

日時 1月19日(日) 13:00～17:15

場所 仙台市市民活動サポートセンター市民活動シアター(青葉区一番町4-1-3)

講師 高森順子氏(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)、山崎麻里子氏(長岡震災アーカイブセンター きおくみらい)

コーディネーター NPO法人20世紀アーカイブ仙台

問 022-214-8002 仙台市市民局市民協働推進課

震災後の生活困りごと・こころの健康相談会

生活の困りごとや司法書士が、こころからだの健康相談に保健師や臨床心理士、保健福祉士が応じます。面接相談は予約制です。相談無料。

対象 生活やこころからだにお悩みをお持ちの方

日時 1月14日(火)、2月18日(火)、3月11日(火) 各日13:00～16:00

場所 宮城県司法書士会館(青葉区春日町8-1)

申・問 022-263-6755 宮城県司法書士会

傾聴茶話会でお話してみませんか

仙台傾聴の会では、被災された方、周囲にはなかなか言えない不安や悩みに耳を傾ける傾聴活動を行っています。温かく迎えてくれる会のメンバーの方々に話してみませんか。申込不要、参加無料。

対象 どなたでも参加できます

日時 1月14日(火)、2月3日(月) 各日10:30～12:00

場所 仙台市市民活動サポートセンター

問 090-6253-5640 仙台傾聴の会(森山)

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
ぽっかぽか	七郷地域にお住まいの方	1月10日(金)	10:00～12:00	七郷市民センター	カルタ取り大会、ほか楽しい内容を予定	要(電話)	支えあいセンターわかばやし 022-781-0559
福祉サロン	福祉市民センター周辺にお住まいの方	1月10日(金)	13:00～15:00	福祉市民センター	リハビリテーション体育	要(電話)	支えあいセンターあおば 022-217-7234
ほのぼの富沢サロン	太白区内のみなし仮設にお住まいの方	1月23日(木)	10:00～12:00	富沢市民センター	スクラップブックづくり	要(電話)	支えあいセンターたいはく 022-217-7234
だれでもサロン「まざらいん」	福祉市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	1月25日(土)	13:30～15:30	福祉市民センター	“福室縁芸場”で演芸を楽しみましょう	要(電話)	支えあいセンターみやぎの 022-292-0990
黒松サロン	泉区のみなし仮設にお住まいの方	1月30日(木)	10:00～12:00	黒松市民センター	音楽を楽しみましょう(オカリナ演奏)	不要	支えあいセンターいずみ 022-772-5755

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	時	時間	会場	内容	担当	問い合わせ
母と子の健康相談	1月14日(火)	9:30～10:30	七郷保健センター	育児の心配や母と子の健康についての相談	保健師・栄養士 ☆の日は歯科衛生士もおります	家庭健康課 内線6772
	1月17日(金)☆ 2月7日(金)	9:30～10:30	六郷保健センター			
	1月31日(金)☆	13:30～14:30	若林区役所3階			
子どものこころの相談室	1月14日(火)	午後・予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	臨床心理士、保健師	
健康づくり講話	1月15日(水)	13:30～14:30	若林区役所3階	おなかをへこますエクササイズ	運動指導員	家庭健康課 内線6785
健康づくり相談	1月15日(水)	14:30～15:30	若林区役所3階	健康相談(要予約)	保健師、栄養士、歯科衛生士	
こころの健康相談	1月16日(木)、20日(月)、24日(金)★、 2月6日(木)、10日(月)	13:30～16:00 ★の日は 9:30～12:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師、精神保健福祉相談員、 保健師など	障害高齢課 内線6752
震災こころの相談	随時(土日祝日除く)	8:30～17:00	若林区役所1階窓口など	震災によるストレスやこころの相談		
高齢者総合相談	随時(土日祝日除く)	8:30～17:00	若林区役所1階窓口	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	
認知症高齢者の家族交流会と介護教室	1月24日(金)	13:30～15:00	若林区役所3階 健康教育室	認知症の方と介護している家族の交流会 ミニ講話「認知症と薬について」	保健師など 欄/バイタルネット	障害高齢課 内線6307

新しい年を迎えて、振りかえると私も家族も一年前とは違った状況にあることに気づきます。正月のような節目は、改めて自分やまわりを確認する良い機会なのかもしれません。

人生「ケセラセラ(なるようになるさ)」と私らしく、思うように生きる、年齢になんて捕らわれないで「今でしょう」と、ちょい悪オバさん気どりでおりましたが、先日「お墓をどうするの」と、自分の『最後』を考える機会をいただきました。

『終活』という言葉をご存知ですか。人生の終わりのための活動の略で「人生をより良く締めくくるための準備」や「今をより良く、自分らしく生きて行くための活動」とも言われています。いつか来るその日よりも、つい「今でしょう」と思ってしまうですが、今と最後の間には『これから』がありました。『これから』をどう生きるかが、次の「今」と「最後」を左右するかと思うと、何を優先すべきだろうか、大切な物は何かしらと、さらに迷うことばかりです。

「ケセラセラ」と口ずさみながら、今年も迷いの一年になりそうですが、皆様には素敵な一年になりますように。

入江徳子(いりえ のりこ)
健康運動指導士として震災後、避難所や仮設住宅集会所で指導を行っている健康増進センターのリーダー的存在

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ A B C D E F

1		2		3		4
	F			D		
		5				
6	7			8	9	
	10		11		12	
13	C		14	15	B	
		16				17
18	A			19		

タテのカギ

- 1月14日、大崎八幡宮をはじめ県内各地で行なわれる小正月行事、○○○祭
- 12月にGPファイナル優勝という快挙を達成した、仙台市出身のフィギュアスケート選手・○○○○結弦
- 人差し指と中指で平和のためにつくる、○○○サイン
- 仙台市を代表する○○○○場といえば、泉区にあるアイスリンク仙台
- 曲がりネギや白菜、セリなど、仙台市では今が○○○の野菜が豊富
- 俗に、○○○物には福がある
- 仙台市の○○○は38度、東経が140度
- 蔵王にあるえぼしスキー場では、1月25日に「えぼし雪上○○○大会」が開かれます
- 逃げるウサギを非常に速いものにたとえて、○○○の勢い
- 1月11、12日、マリナル女川おさかな市場で、女川港に水揚げされる「○○祭り」が開催されます
- 2月7日から開幕する冬季五輪。開催されるロシアの都市は？

ヨコのカギ

- 大作の書物などをすべて読み通すこと
- 耳たぶに小さな穴をあけて通す装飾品
- 太白区での都市計画、仙台南○○○タウン
- 器具を使わないで行なう、○○○体操
- 仙台市街から仕事終わりにスキー場でナイターを楽しむ方も多いでしょ。昨今は○○○ボードも大人気
- 冬場でも仙台市の公園や野山の○○○道で散策が楽しめます
- 杜の都といえば仙台市。○○○といえば京都、奈良でしょうか
- 現在の宮城県の元となったのは、江戸時代の仙台○○
- 仙台駅から東京方面への電車が上りなら、青森方面に向かうのは？
- バレエなどで腰から足先まで着用され、防寒用にもなったり
- バイオリンよりやや大きく、チェロより小さい
- 五輪の聖火リレーで使いたいまつのこと。今回の冬季五輪で史上初めて、宇宙ステーションまで渡りました

前回のこたえ

A ク B リ C ス D マ E ス

でした。

1	ウ	2	チ	3	カ	4	ケ	ト	メ
5	イ	カ		6	イ	ナ	リ		
	ン		7	キ	バ	8	ト	9	ス
10	ク	11	ズ	12	ナ	メ	タ		
		13	ト	14	カ	イ			ー
15	ア	16	マ	17	オ	フ	ダ		
		18	バ	19	ス	テ	パ		

編集後記

Xmasの飾りつけをしていた卸町5丁目公園仮設住宅の皆さん。お茶にするよ、と頂いたのが、良い香りのハーブティー。駐車場脇で育てたローズマリーとアップルミントだそうです。ふっ。 (きくち)

表紙撮影で訪れた大沼には、風に乗って飛び立つ多くの白鳥。初めて間近で聞いた大きな羽音には驚きました。優雅に飛んでいるように見えても、一生懸命に羽を動かしていたんですね。(佐藤)

お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越し後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mmmm.or.jp